

浦ノ内湾における赤潮発生予測情報 R5-1

【概要】

- ・ 令和5年6月26日の環境調査で、鳴無及び中学校前定点におけるカレニア・ミキモトイの細胞密度が今季初めて1 mLあたり100細胞を超えました。
- ・ これまでの知見から、細胞密度が100細胞/mLを超え、水温が20℃以上であると、概ね1～2週間後に赤潮が発生する傾向があります。
- ・ 今後、カレニア・ミキモトイにとって好適な環境が続けば、7月上旬ごろに赤潮が発生する可能性が高いと考えています。

【赤潮発生予測について】

- ・ 水産試験場では、過去の浦ノ内湾におけるカレニア・ミキモトイとシャットネラ属の赤潮発生状況をデータ化し、赤潮発生シナリオを構築しました。
- ・ そのシナリオから赤潮発生予測マニュアルを令和3年度に作成し、令和4年度から予測を情報提供しています。

【カレニア・ミキモトイの予測マニュアル】

- ① 海水中のカレニア・ミキモトイの遺伝子量が増加傾向にあると赤潮の発生リスクが高い
- ② 調査定点の細胞密度が100細胞/mLを超えると、概ね1～2週間で赤潮が発生
(これまでの赤潮発生までの日数：最短2日、最長80日)
- ③ 発生時期が早い(例えば5月中の発生)と、大規模な赤潮になりやすい
(大規模：細胞密度が高い、発生期間が長い)
- ④ 深度5mの水温が20℃以上になると、赤潮が発生する傾向がある

※この予測情報は、昨年度から提供を開始したもので、今後も精度向上につとめていきます。予測どおりにならないことも考えられますので、現場の状況に十分注意して、養殖作業を行ってください。

以上